



平成30年

1月の園だより



第二みみよう保育園

十二支の由来

ある時、神様が動物たちを集めて「お正月の朝早く来たものから12番目の者をその年の干支にする」と言いました。猫はうっかりしていたのでネズミに尋ねました。ネズミはわざと約束の次の日を教えました。ネズミが牛のところに行くと牛は、「歩くのがゆっくりだから、早く出かけるよ」と言うのでネズミはさかさず牛の背中に乗りました。

朝になり、神様の門の前まで来るとネズミは牛の背中から飛び降りて、「私が一番!」と名乗りました。そして、牛が2番です。次々にトラ、ウサギ、タツ、ヘビ、ウマ、ヒツジ、サル、トリ、イヌ、イノシシと干支をつけてもらいました。

次の日に行った猫は、誰もいないのであわてて門番に尋ねると「顔を洗って出直して来い」といわれました。猫が良く顔を洗うしぐさをするようになり、ネズミを追いかけるのはこのときからだそうです。

成人の日 1月8日

大人になったことを自覚し、自ら生きぬこうとする青年を祝い、励ます日で、昭和23年に制定され、平成12年(2000年)から1月の第二月曜日に定められました。民法では、“満二十歳ヲ以ツテ成人トス”とあり、法律上独立の社会人としての地位を与えられます。

わが国では古くから成人を祝うしきたりがあり、男性は元服、女性は裳着といました。

まだまだ成人には年月がかかる子どもたちですが、夢と希望を持って成人できるよう、私たち大人が毎日明るく、前向きな姿を見せていきたいものです。

消さないで
あなたの心の
注意の火



広島市南消防署
警防課 救助係

「不易流行」

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく申し上げます。子どもたちにとって、保護者の皆様方にとって良い年でありますことを心より念じ申し上げます。

さて、近年の幼児教育・保育を取り巻く環境は、目まぐるしく変わっており、潮流に巻き込まれた船のようです。潮流に巻き込まれたと表現したその意味は、相も変わらず子ども主体ではなく経済主体で議論がなされ、その方向が全く予測不能ということからです。

政府は、平成31年10月に予定する消費税引き上げによる増収分を活用して「幼児教育・保育の無償化」を32年度までに実施する旨を打ち出しました。幼児教育・保育の無償化については、人口減・少子高齢化に直面する日本経済の打開策としてスタートしますが、無償化することで出生率の上昇につながるという理論は限定的な効果しか期待できないと考えます。むしろ、無償化することによって、全ての子どもが対象となり、待機児童の問題が一段と顕著になるといった問題が出てくるかもしれません。

本来であれば、無償化以前に、質の高い幼児教育や保育を提供できる改革があつてしかるべきであったと考えますが、当面の最優先課題は待機児童の解消であろうかと考えます。政府は女性就業率80%に対応できるよう、「子育て安心プラン」で平成32年度までに32万人分の保育の受け皿整備を進めることにしていますが、いくら箱物をつくっても、すでに保育士不足は都市部、過疎地問わず深刻な問題となっており、保育士の採用は非常に困難な状況にあります。

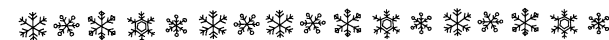
このように、乳幼児教育・保育の枠組みは非常に不安定であります。そうした中、微妙福祉会では、昨年12月に放課後児童クラブ「みみよう児童クラブしなのめ」を開設し、また、この4月には既存の日出みみよう保育園を「日出みみよう乳児園」に改名し3歳未満児の定員を増員します。

そして、6月には定員90人(3歳以上児)の「日出みみよう幼稚園」を新たに開設します。ひとえに、保護者の皆様のご理解・ご協力、地域の見守り、職員の献身的な努力もあつてですが、地域ニーズに積極的に対応してきた結果だと思っています。

日出みみよう幼稚園は、園庭のない園舎(200㎡の屋上園庭と150㎡のホールはあります)です。また、3歳以上児のみという園は初めてです。そこでは、4・5歳を中心とした異年齢児保育の展開を考えていますが、これまでみみようが培ってきた、コミュニケーションスキルや探究心、物事をやり抜く力を総合的に高める協同的な学びである非認知能力の獲得である「アクティブ・ラーニング」への取り組み、そして子ども自らが主体的、能動的にあそび込む中で、「対話」を通して成長できる保育をさらに深めて実践し、第二みみようの保育においても展開していきたいと考えています。

不易流行という言葉がありますが、その意味は、いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも新しく変化を重ねているものをも取り入れていくことです。保育現場では、子どもに対する深い理解と愛情、そして保護者への心の寄り添いといった基本的価値観と、時代の変化とともに変えなければならない方法論や評価観があります。「感謝と思いやりのある自主的な行動がとれる子」といった保育理念は不易であり、異年齢児保育や園庭がなくても構成に配慮した最善の保育環境をつくることは流行ではなかるうかと思えます。

微妙福祉会は、平成31年に創立70周年を迎えます。今年が新たな布石の第一歩という気持ちで、不易流行を自覚しながら、時代に即した教育・保育を展開してまいります。そして、常に子ども中心の園であり続けたいと思います。引き続きのご理解とご協力をお願いします。



お話を聞く
心の声も聞く



ママに何か話そうと、一生懸命な子どもの言葉。さえぎらずにゆっくり聞きましょうね。さみしい気持ち、悲しい気持ち、怒りや不満も「そうなの、かなしかったね」「さみしかったね」とまづは全部受け入れます。すると、子どものモヤモヤは消えていきますよ。

大和書房「子育てでいちばん大切なこと
児童精神科医 佐々木正美 著

とんど祭り



小正月の行事で、正月の松飾り、しめ縄、書初めなどを、長い竹、萱、藁などを組んだものに飾り付け、燃やすという、日本全国に伝わるお正月行事です。また、残り火で餅や、団子を焼いて食べると、その一年元気で過ごせるといういわれがあります。

今年も、東雲本町公園で8日(月)に行われます。

ご家族で、お正月の伝統行事に触れてみてはいかがでしょうか。